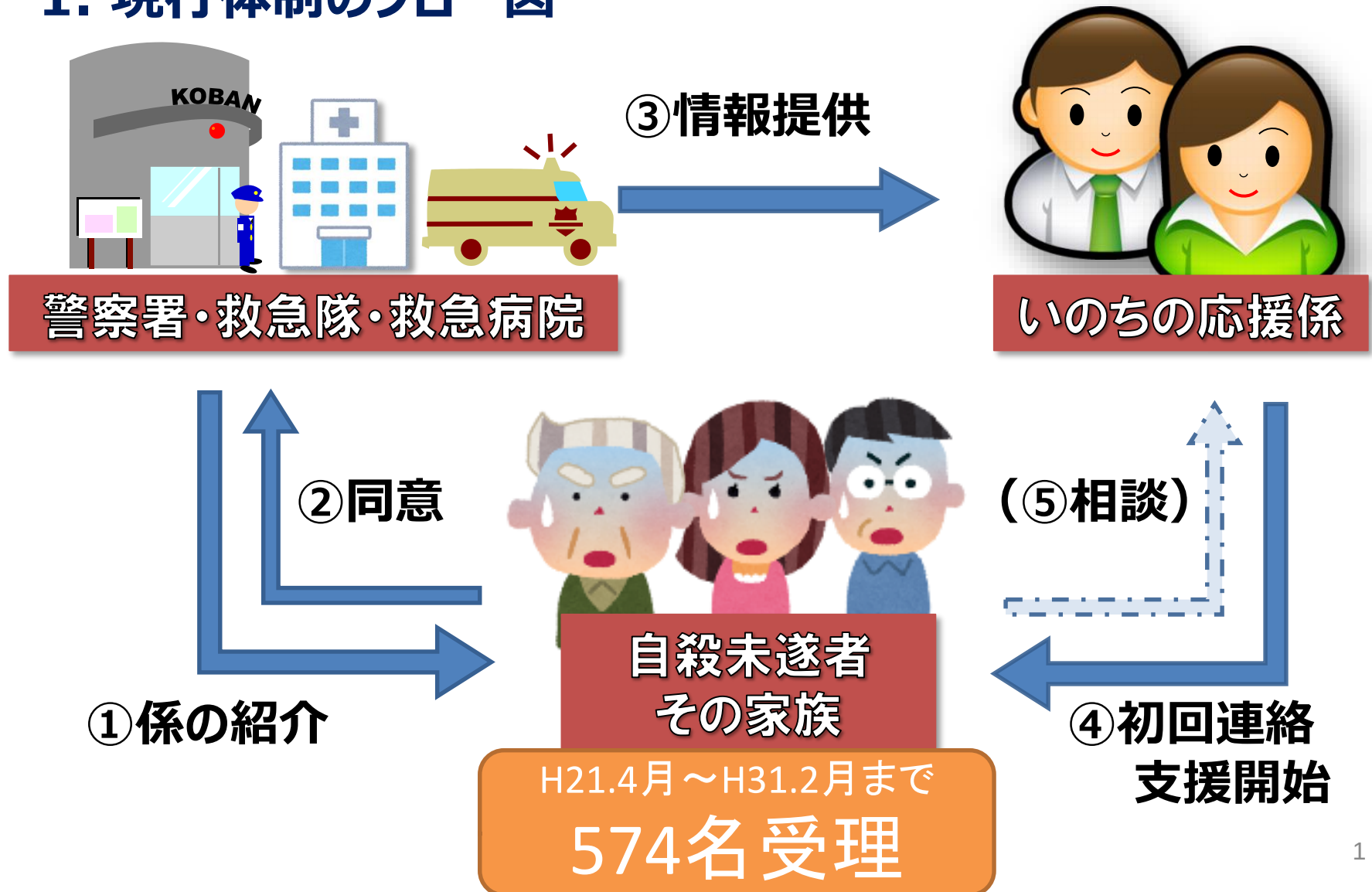


自殺未遂者支援事業について

資料⑥

1. 現行体制のフロー図



2. 新規相談受理実績（実数）

紹介先	警察署		救急隊		救急病院		その他		合計
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
平成21年度	15	100.0%	—	—	—	—	—	—	15
平成22年度	28	87.5%	—	—	—	—	4	12.5%	32
平成23年度	17	38.6%	24	54.5%	—	—	3	6.8%	44
平成24年度	32	76.2%	5	11.9%	—	—	5	11.9%	42
平成25年度	62	79.5%	8	10.3%	1	1.3%	7	9.0%	78
平成26年度	50	78.1%	4	6.3%	2	3.1%	8	12.5%	64
平成27年度	47	73.4%	2	3.1%	5	7.8%	10	15.6%	64
平成28年度	46	74.2%	6	9.7%	6	9.7%	4	6.5%	62
平成29年度	63	71.6%	8	9.1%	9	10.2%	8	9.1%	88
平成30年度	52	61.2%	13	15.3%	9	10.6%	11	12.9%	85
合 計	412	71.8%	70	12.2%	32	5.6%	60	10.5%	574

2/28現在

※「その他経由」→ 本来実施している紹介ルートとは違う形で入って来た相談で、インターネットや新聞等で本係のことを知って、直接相談のあったケースや、地域の保健センターの精神保健福祉相談のなかで挙がって来たケース等。

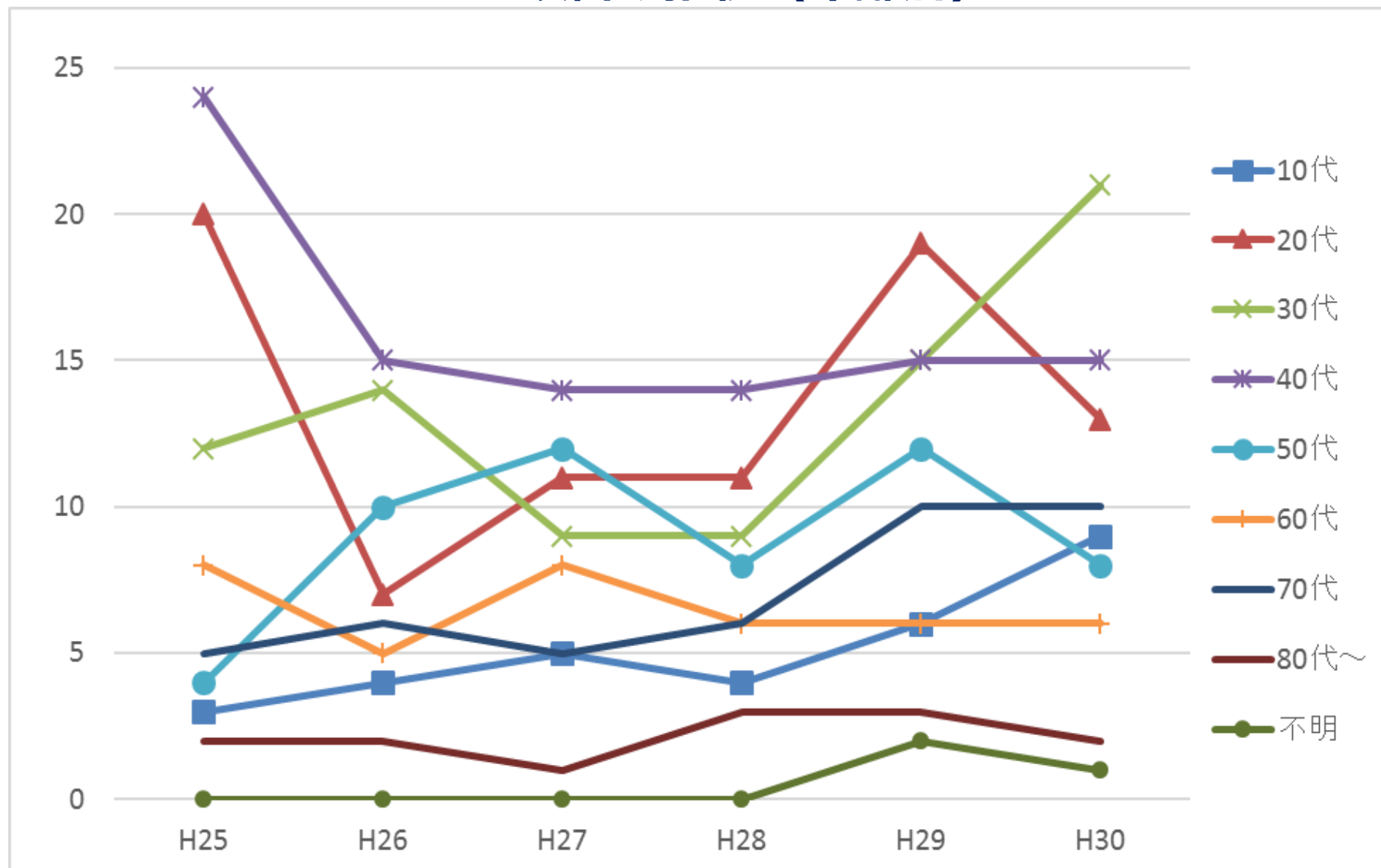
3. 新規相談受理実績（年齢×年度）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～	不明	総計
H21 ～24	6	25	36	28	11	12	10	5	1	134
	4.5%	18.7%	26.9%	20.9%	8.2%	9.0%	7.5%	3.7%	0.7%	100.0%
H25	3	20	12	24	4	8	5	2	0	78
	3.8%	25.6%	15.4%	30.8%	5.1%	10.3%	6.4%	2.6%	0.0%	100.0%
H26	4	7	14	15	10	5	6	2	0	63
	6.3%	11.1%	22.2%	23.8%	15.9%	7.9%	9.5%	3.2%	0.0%	100.0%
H27	5	11	9	14	12	8	5	1	0	65
	7.7%	16.9%	13.8%	21.5%	18.5%	12.3%	7.7%	1.5%	0.0%	100.0%
H28	4	11	9	14	8	6	6	3	0	61
	6.6%	18.0%	14.8%	23.0%	13.1%	9.8%	9.8%	4.9%	0.0%	100.0%
H29	6	19	15	15	12	6	10	3	2	88
	6.8%	21.6%	17.0%	17.0%	13.6%	6.8%	11.4%	3.4%	2.3%	100.0%
H30	9	13	21	15	8	6	10	2	1	85
	10.6%	15.3%	24.7%	17.6%	9.4%	7.1%	11.8%	2.4%	1.2%	100.0%
総計	37	106	116	125	65	51	52	18	4	574
	6.4%	18.5%	20.2%	21.8%	11.3%	8.9%	9.1%	3.1%	0.7%	100.0%

※2/28時点

(名)

H25以降の推移（年齢別）



4. 振返りから見た結果①

平成21年4月～平成29年9月末までに受理・支援した対象者452名について、平成30年3月末時点での集計・分析を行った。

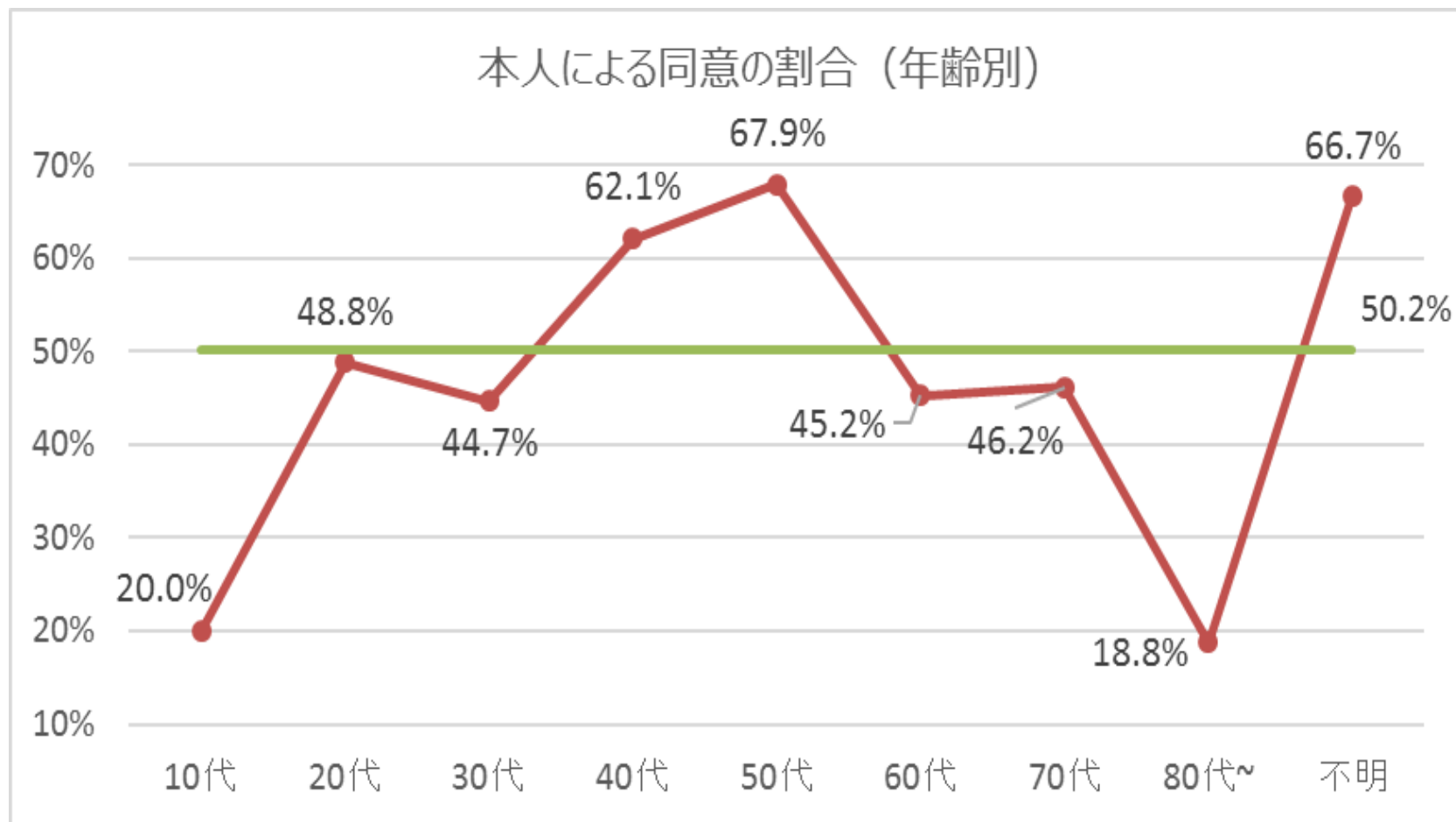
<相談に同意した方の内訳>

相談者／年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～	不明	合計
本人	5	42	38	64	36	19	18	3	2	227
	20.0%	48.8%	44.7%	62.1%	67.9%	45.2%	46.2%	18.8%	66.7%	50.2%
本人以外	20	44	47	39	17	23	21	13	1	225
	80.0%	51.2%	55.3%	37.9%	32.1%	54.8%	53.8%	81.3%	33.3%	49.8%
合計	25	86	85	103	53	42	39	16	3	452

<相談に同意した方 × 転帰>

転帰／相談者	継続中	改善終了	連絡途絶	支援希望せず	市外転出	他機関引継ぎ	自殺完遂	病死等	その他	総計
本人	57	42	46	34	20	16	4	8	0	227
	25.1%	18.5%	20.3%	15.0%	8.8%	7.0%	1.8%	3.5%	0.0%	100.0%
本人以外	54	49	46	42	10	8	12	3	1	225
	24.0%	21.8%	20.4%	18.7%	4.4%	3.6%	5.3%	1.3%	0.4%	100.0%
総計	111	91	92	76	30	24	16	11	1	452
	24.6%	20.1%	20.4%	16.8%	6.6%	5.3%	3.5%	2.4%	0.2%	100.0%

＜相談に同意した方の内訳＞



5. 振返りから見た結果②

＜原因・動機＞

原因	家庭問題	健康問題	(内)健康 (ここ)	(内)健康 (からだ)	経済・生活 問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他	不明	(内) 複数
総数	159	313	283	65	86	31	36	8	50	2	196
(n=452)	35.2%	69.2%	62.6%	14.4%	19.0%	6.9%	8.0%	1.8%	11.1%	0.4%	43.4%

＜参考：堺市における自殺者の原因・動機（H25～29集計）＞

原因・動機	総数	家庭問題	健康問題	経済・生活 問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他	不詳
H25～29集計	640	140	472	132	62	27	6	39	17
		21.9%	73.8%	20.6%	9.7%	4.2%	0.9%	6.1%	2.7%

※警察庁「自殺統計」に基づく厚生労働省「地域の自殺の基礎資料」より堺市作成

6. 自殺者中における未遂歴の有無

＜堺市＞

未遂歴の有無	H22		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
あり	52	26.8%	38	20.5%	40	25.3%	35	25.0%	32	24.8%	29	20.1%	24	21.1%	24	21.2%
なし	115	59.3%	119	64.3%	109	69.0%	87	62.1%	80	62.0%	92	63.9%	68	59.6%	78	69.0%
不詳	27	13.9%	28	15.1%	9	5.7%	18	12.9%	17	13.2%	23	16.0%	22	19.3%	11	9.7%
合計	194	100.0%	185	100.0%	158	100.0%	140	100.0%	129	100.0%	144	100.0%	114	100.0%	113	100.0%

＜全国＞

未遂歴の有無	H22		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
あり	5,851	18.7%	6,168	20.3%	5,457	19.8%	5,424	20.1%	5,116	20.3%	4,566	19.2%	4,278	19.7%	4,007	19.0%
なし	18,294	58.4%	17,566	57.8%	16,276	59.0%	15,861	58.7%	15,149	60.1%	14,635	61.5%	13,567	62.5%	13,266	62.8%
不詳	7,189	22.9%	6,636	21.9%	5,856	21.2%	5,756	21.3%	4,953	19.6%	4,605	19.3%	3,858	17.8%	3,854	18.2%
合計	31,334	100.0%	30,370	100.0%	27,589	100.0%	27,041	100.0%	25,218	100.0%	23,806	100.0%	21,703	100.0%	21,127	100.0%

＜堺市＞

未遂歴の有無	H22～25		H26～29	
あり	165	24.4%	109	21.8%
なし	430	63.5%	318	63.6%
不詳	82	12.1%	73	14.6%
合計	677	100.0%	500	100.0%

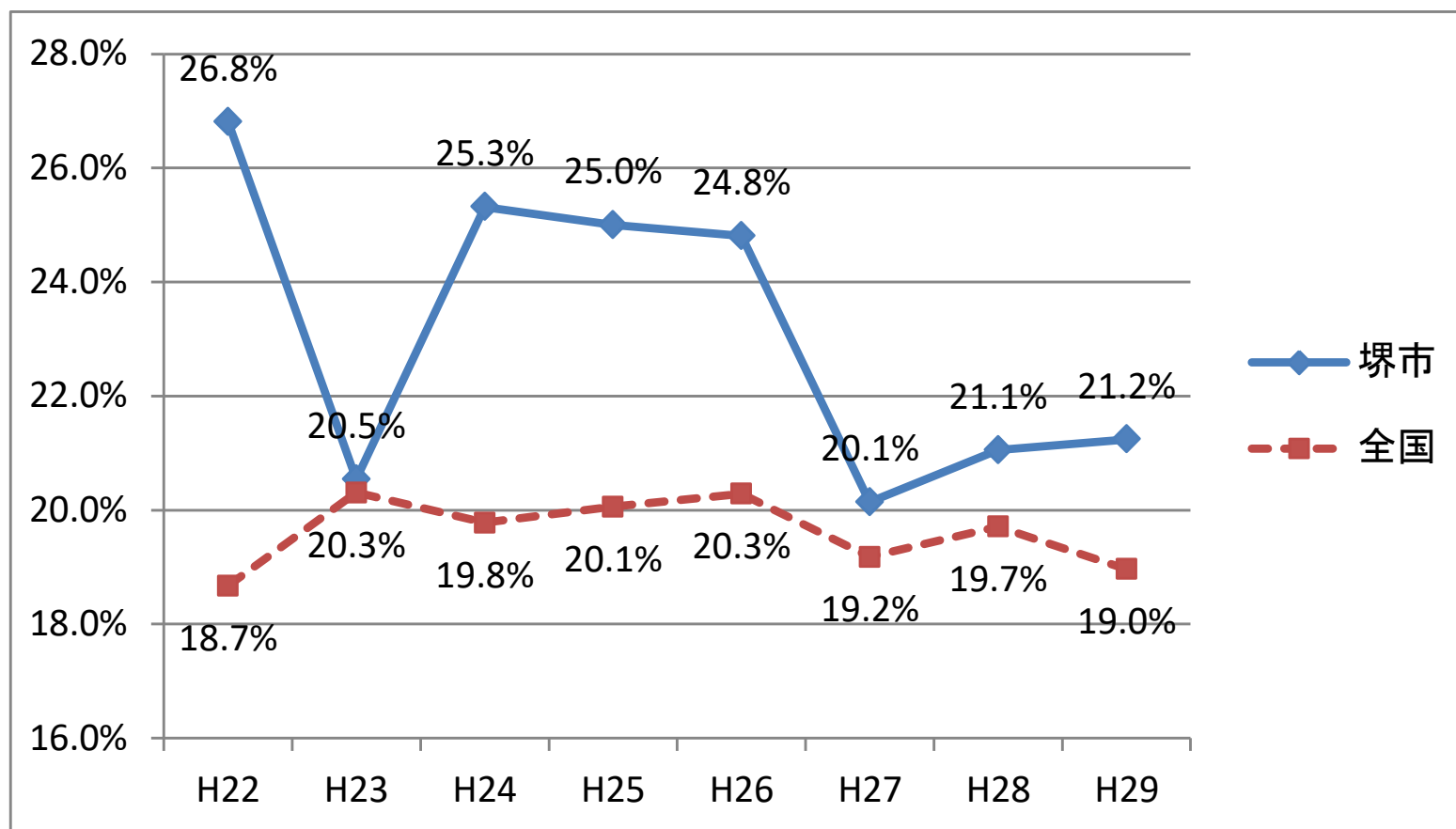
＜全国＞

未遂歴の有無	H22～25		H26～29	
あり	22,900	19.7%	17,967	19.6%
なし	67,997	58.4%	56,617	61.6%
不詳	25,437	21.9%	17,270	18.8%
合計	116,334	100.0%	91,854	100.0%

※警察庁「自殺統計」に基づく厚生労働省「地域の自殺の基礎資料」より堺市作成

自殺未遂歴「あり」の人の割合の推移

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
堺市	26.8%	20.5%	25.3%	25.0%	24.8%	20.1%	21.1%	21.2%
全国	18.7%	20.3%	19.8%	20.1%	20.3%	19.2%	19.7%	19.0%



※警察庁「自殺統計」に基づく厚生労働省「地域の自殺の基礎資料」より堺市作成

7. 今後の方向性①

<課題と可能性①：関係機関をつなぐコーディネータとしての介入スキル>

未遂行為の原因に注目すると、「家庭問題」が159件と、全体の1/3以上（35.2%）に及ぶ結果が示された。国資料に基づく自殺者の原因・動機においては、「家庭問題」は21.9%に留まっており、継続した関わりの中で、家族間の問題が見えてくる場合も多く、潜在的に家庭問題を抱えている事例がある可能性を示唆しているともとれる。

例えば、支援対象者がDVや虐待の加害・被害者である場合等、関係機関との連携において、より繊細な対応が必要となり、関係機関間で連携した統一的な関わりを主導することが、地域の支援機関ならではのスキルとして求められる。家庭問題に限らず、複数の問題を抱えた対象者への支援においては、機関・制度をつなぐコーディネータとしての役割が求められる。

このような役割の不足は課題でもある一方、従来の支援のあり方では解決につながらなかった問題への支援として、可能性であるとも言える。

8. 今後の方向性②

＜課題と可能性②：相談意欲の「波」を逃さないアプローチ＞

転帰の調査結果から、連絡途絶20.4%（92名）と、支援希望せず16.8%（76名）とを合わせ、全体の37.2%で最終的には支援を継続できなかった。

相談意欲・希求能力が低い場合の継続的な支援の難しさが表れている。

なお、当初の相談同意者が本人であるかどうか、については、必ずしもその転帰に大きな影響を与えない結果となっていた。

相談意欲・希求能力の醸成を図ることは、自殺対策全体を考える上で大きな課題であると思われる。例えば、当初は支援を希望していたものの、時間経過につれて相談意欲が落ちてくるケースも容易に想像される。しかし反対に、介入のチャンスとなり得る時期が訪れることもある。定期的な連絡を継続することで、対象者の「波」を逃さず、適切なタイミングで支援につなげることもまた可能である。

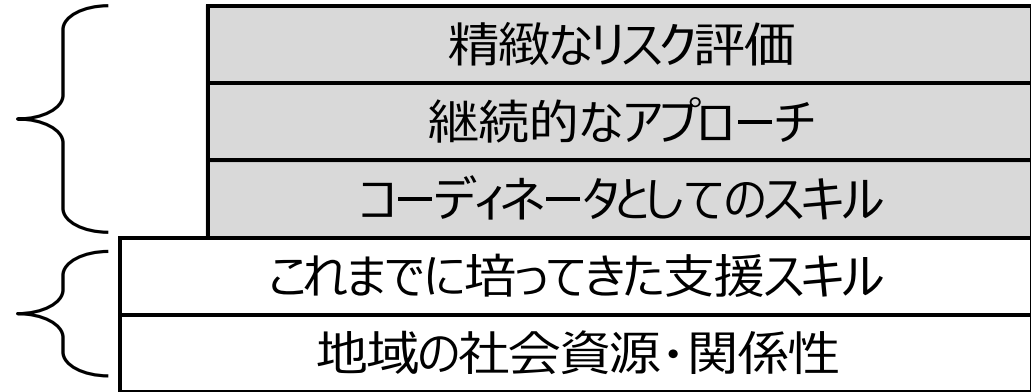
つまり、電話や対面による面談スキルや連絡のタイミングに支援が継続できるか否かがかかっているとも言え、従来の支援のあり方では支援に乗らなかった層をつなぐことができるか？という点で、課題でもあり、また、可能性とも言える。

今後の方向性

<地域の支援機関における課題>

課題 = 求められるもの

従来から持つ強み



<今後の可能性>

対象者が抱える課題（現状）

- ・相談意欲・希求能力の低さ
- ・解決につながりにくい問題（家庭問題、複数の課題等）

適切な介入

リスク評価と質を伴った
継続的な関わり

関係機関・制度をつなぐ
コーディネータ的な支援

地域の支援機関ならではのアプローチ

9. 実践を踏まえた研修への活用

＜ポストベンションをテーマにした支援者向け研修＞

自殺未遂者支援事業における相談員の経験を基に、支援対象が亡くなられた場合に、支援者自身に起こる反応やそのケアについて、研修を実施。（計3回）

○相談機関研修として実施（計2回）

・・・ 市内相談機関、救急医療機関（精神科含む）職員を対象に

○自殺未遂者ケア研修として実施（1回）

・・・ 市内相談機関、救急隊職員を対象に

＜ゲートキーパー養成研修＞

実際に支援に従事している相談員・心理士が講師に